

きみは知っているか

こんな男が

こんな時代で

こんな人生を生きたことを…

広報かみごおり500号記念特集

# アニメのきりせき

「後世に伝えたいことがある。上郡町の偉人、大鳥圭介のことを。」

「そうだ！大人から子どもまでが楽しめるように圭介のアニメを作ろう。」

「ただ、アニメを作るのではなく、地域のボランティアの手でアニメを作ってみるのはどうだろうか…。」

「そして、アニメを使ってまちおこしができるばな…。」

「そんな思いを胸に、「けいすけじゃ」は動きはじめます。」

オ・ガ・バ



5月16日(月)から、町ケーブルテレビ「えんしんネット」で放送されているアニメ「けいすけじゃ」。現在、全20話のうち前編の13話までが完成しました。

町内外のボランティアスタッフによって制作されたこのアニメには、多くの方の情熱と努力がこめられています。

今回は、広報かみごおり500号と大鳥圭介の没後100年を記念して、アニメ「けいすけじゃ」の制作過程や大鳥圭介をとおしてのまちづくりを紹介します。

# アニメの軌跡

それでは、わしがアニメの主人公である圭介の生涯を紹介しよう!



純平じいさん(第1話)



## 大鳥圭介の生涯を知る

### 圭介の偉業

大鳥圭介は、江戸時代末期の天

保3(1832)年、赤穂郡細念村

小字石戸(現在の<sup>こあざいしど</sup>上郡町岩木石戸地

区)で医業を営む大鳥直輔の長男として生まれました。

幼いころは、やんちゃでガキ大将でしたが、医者であり漢学者である祖父純平の指導のもと、学問を志しました。

現在の備前市にある、岡山藩開谷学校で5年間学び、祖父純平のように漢学者になろうとしました。しかし、父のたつての願いで、中島意庵という赤穂の西洋医師の下で、2

年間修業をしました。

そこで、西洋医学の原書を学ぶことの大切さを教えられ、大阪の適塾の門を叩き、福沢諭吉や大村益次郎らを指導した緒方洪庵から蘭学を学びました。

激動の時代の中で、21歳の圭介にとって、興味は医学から兵学・工学へと移り、江戸に向かいました。折から西洋兵学塾に講師として招かれた圭介は、蘭学だけではなく、砲術、造船、洋式調練、そして、英語や数学、フランス語まで身につけたのです。



||



老年期の大鳥圭介(上)とアニメ化された大鳥圭介(下)

また、自ら活字鑄造技術を研究し、日本初の活版印刷に成功しました。

江戸幕府が体制強化のために人材を民間から募集したとき、圭介の才能が幕府の目にとまり、開成所洋学教授、歩兵奉行を務め、幕府洋式陸軍の育成と訓練にあたりました。

慶応3(1867)年の大政奉還、翌年の江戸開城を不満とし、圭介は榎本武揚の唱えた主戦論に賛同し、函館の五稜郭で官軍と交戦。その戦いに敗れて捕らえられましたが、その学識が評価されて明治政府に迎えられたのです。

出牢後は、欧米やタイに派遣され、各国の産業を視察し、内国勸業博覧会の開催や産業の近代化に力を注ぎました。その後、工部大学校長、学習院長、華族女学校長を歴任し、教育界にも貢献しました。さらに明治22(1889)年に特命全權大使として清国に派遣され、同26

(1893)年には朝鮮公使を兼任し、外交手腕を発揮しました。

圭介は近代化をめざした日本の様々な分野で功績をあげ、79歳でこの世を去るまで、いつも社会に目を向けながらも、ふるさとを愛する心を忘れませんでした。



アニメの原点を訪ねる

— 漫画「幕末風雲児 大鳥圭介伝 けいすけじゃ」 —

漫画「幕末風雲児 大鳥圭介伝 けいすけじゃ」は、アニメ「けいすけじゃ」のもととなった漫画(原作)です。

つまり、この漫画がなければ、アニメを製作することはできませんでした。

この漫画は、上郡の山本新聞店店主 故・山本修さんが「上郡町民に大鳥圭介をよく知ってもらいた

い」との意図で、高田台出身の半沢裕人さんに漫画化を依頼。同新聞店発行の「上郡民報」に平成5年4月号から平成11年11月号まで、約5年間にわたり連載されました。

原作は、「大鳥圭介伝(著・山崎有信)」「大鳥圭介とその時代(著・西山昌夫)」などの資料をもとに、虚実まじえながらも大鳥圭介の半生がいきいきと描かれています。



漫画「幕末風雲児 大鳥圭介伝 けいすけじゃ」



私たちは、この漫画からうまれたんだね!

圭介の家族たち(第1話)



きつけはまちおこし

アニメの始まり

「アニメを作ってた、まちおこし  
ませんか」。

平成21年6月、のちにアニメ  
「けいすけじゃ」の監督となる町内  
出身のプロアニメーター藪本陽輔さ  
んの一言が、上郡町と「けいすけ」  
を動かすこととなります。

「漫画『けいすけじゃ』を原作に  
アニメを作ると子どもたちに大鳥圭  
介を知ってもらうことができるし、  
なにより、自治体がアニメを作るこ  
とは全国でもめずらしいので、町を  
アピールできると思いますよ」。



これからのアニメ製作方法を確認する皆さん  
(製作説明会)



適塾生 岩谷(第4話)

その熱意に感動したぜ!

藪本さんのひらめきに町も賛  
同。大鳥圭介が没後100年を迎え  
る平成23年に向けてアニメを作るた  
め協議することになりました。  
平成22年2月には、藪本さんを筆  
頭に9名の有志が集まり、どのよう  
にしてアニメを作るか、おおまかな  
イメージを話し合いました。  
同年5月には、本紙でアニメ製  
作ボランティアアスタツフを募集。  
多数の応募があり、約30名のボラン  
ティアスタツフがそろいました。  
同年6月27日、ボランティアアス  
タツフと町長、町職員が参集のも  
と、アニメ「けいすけじゃ」製作説  
明会が役場で行われました。  
この説明会を皮切りに正式にア  
ニメ製作が始まりました。



談笑する監督の藪本さん(右)とメインスタッフの大石さん(左)

製作が進むにつれ、ボランティア  
アスタツフは着々と増えていき、最  
終的に約100名がアニメに関わり  
ました。スタツフは、町内だけにと  
どまらず、東は東京、西は長崎と全  
国をまたにかける一大プロジェクト  
になりました。  
藪本さんが監督として製作の指  
揮をとり、原画も描きました。ま  
た、東京で活躍中のアニメ監督・プ  
ロデューサーの西沢信孝さんが藪本  
さんの声かけに賛同し、原画のもと  
となる絵コンテと脚本を製作しまし  
た。音響(アニメの効果音など)や

声優の指導などは若屋の市民団体  
Tiok<sup>ティオク</sup>クラブが担当。そして、アニ  
メ製作の知識と技術を持つ坂本治代<sup>はるよ</sup>  
さんと大石博之さんが、メインス  
タッフとして、初めてアニメを製作  
するスタツフを指導しました。  
こうして、「けいすけじゃ」は、  
アニメと大鳥圭介に情熱を持った多  
くのボランティアアスタツフによつて  
作られたのです。

横田の小言!その一

わたくし、大木塾一の秀才、横田が  
大鳥さんに関する豆知識をお届けします。  
大鳥さんは、昔からとにかく足が速い  
ことで有名です。幼少期は、実家がある  
石戸地区から岡山県備前市の閑谷学  
校まで約25kmもの道のりを通っていま  
した。普通の人々が6時間かかる道のりを2  
時間30分ほどで歩いたそうです!?大鳥さ  
んの脚力…恐るべし!

大木塾生 横田(第9話)

半沢さんが描いた原作(漫画)①をもとに西沢さんが脚本・絵コンテ②を描きます。その絵コンテをもとに藪本さんがレイアウト③を製作します。

そもそも、アニメってどうやって作るの?と疑問に思う方も多いでしょう。アニメ製作は様々な工程に分かれていて、みんなが役割分担して作ったわけだ。役場には、スタッフに自由に使ってもらえるアニメ製作部屋が用意され、そこにみんなが集まり、わきあいあいと作業を行ったのだ。また、自宅などで一生懸命アニメを製作してくれた方もいた。アニメは、みんなの力が合わさって完成したのだ。それでは大鳥くん!あとは、よろしく!



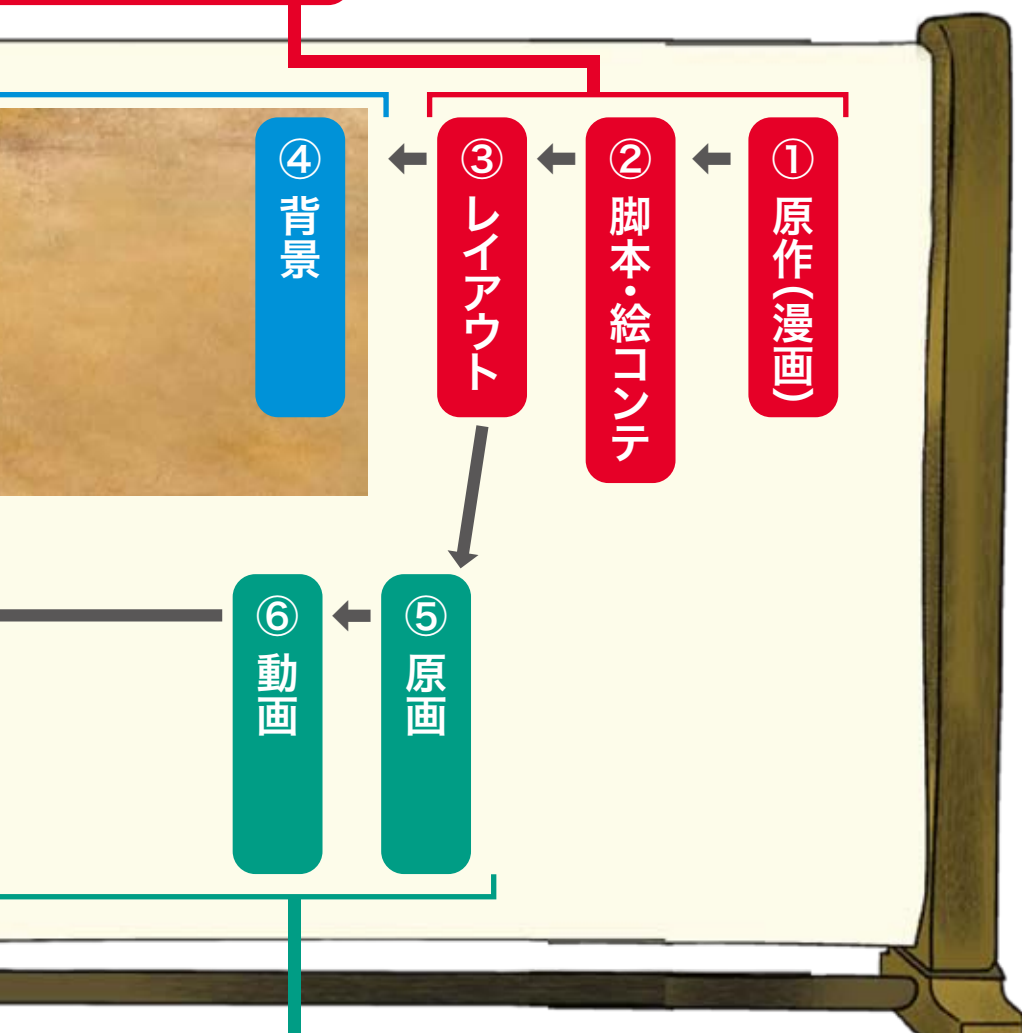
緒方洪庵(第4話)

# アニメ解体新書



☒  
で  
み  
る

ア  
ニ  
メ  
の  
作  
り  
方



⑦



⑤

レイアウト③をもとに原画⑤が作られます。

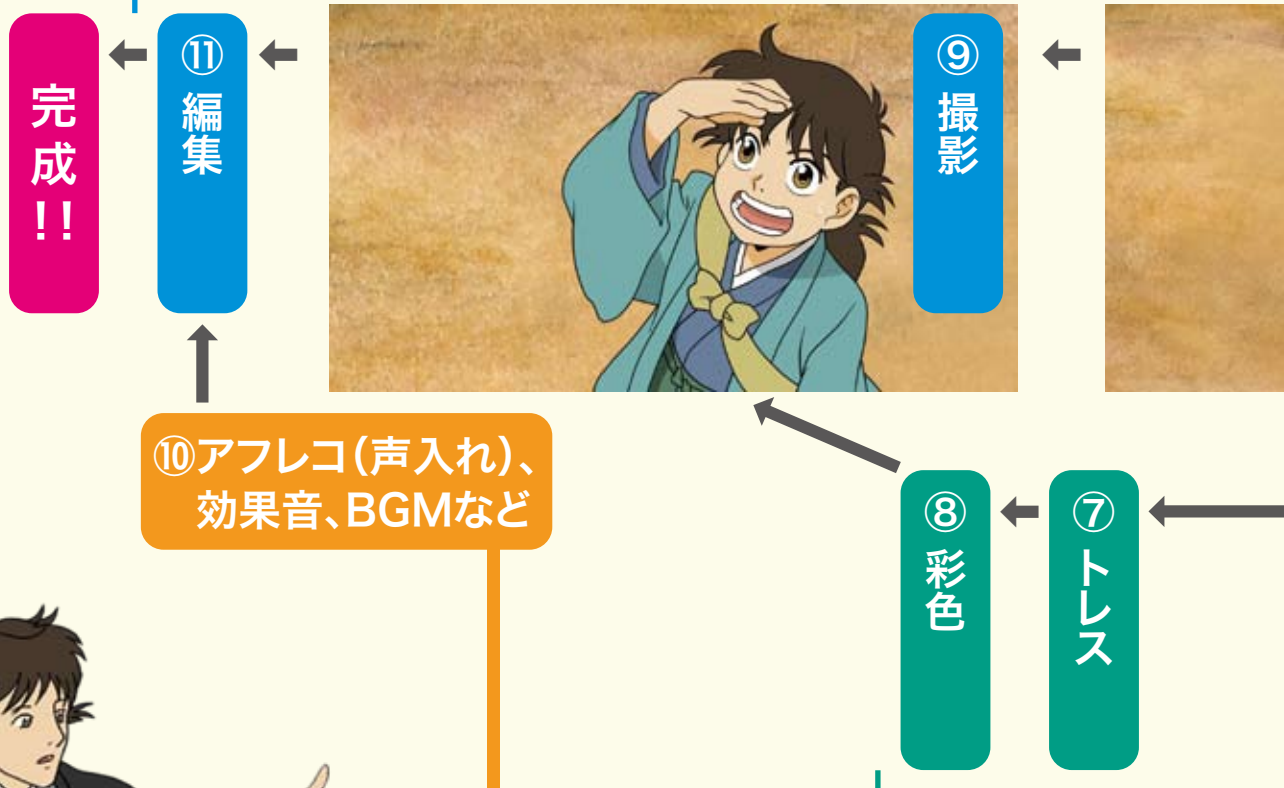
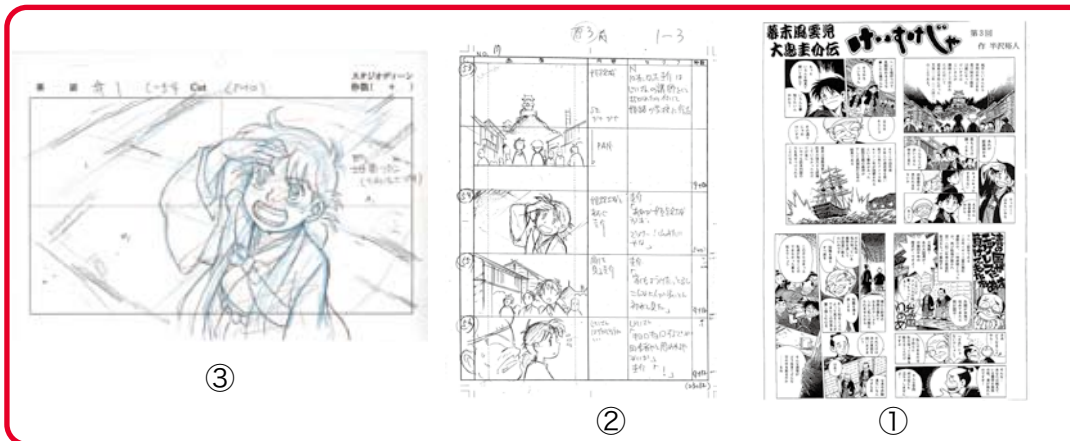
動画⑥というのは、原画と原画の間、原画には描かれていない部分を補間する工程として位置づけられています。たとえば、口の動きや目の動きなどのことをさします。

トレス⑦は、原画の上に用紙を置いて、透かした原画を写し取る作業です。今回は、鉛筆と用紙でトレスを行う(アナログトレス)場合と原画をスキャナーでデータ化し、パソコン上でトレスを行う2つの方法で行いました。

次に彩色⑧は、トレス⑦を行ったものに色をつけていく作業です。各キャラクターには、統一した衣服や肌の色が設定されています。



レイアウト③をもとに背景④が描かれます。撮影⑨は、⑤⑥⑦⑧の工程を経たキャラクターと背景④を合わせる作業です。そして最後に⑨と⑩を合わせ、キャラクターを動かす編集⑪を行い、アニメは完成します！



大鳥圭介(第14話)

はい！先生。それでは、今回のようにアニメが製作されたか説明します。製作は、大きく11の工程に分かれています。各工程をクローズアップしてみよう。

アニメの効果音やBGMなどは、Tioクラブが担当。声優には、町内の学生や自治会の方、そして神戸の専門学校「アートカレッジ神戸」の生徒たちが参加しました。また、オープニングとエンディングの曲は、町内出身のロックバンド「BLUES DOG」が製作しました。



監督の数本さんにアニメ「けいすけじゃ」に対する思いをお聞きしました。

【数本陽輔さん35歳。上郡町出身。現在、東京で活躍中のプロアニメーター。アニメ製作のために平成22年春から約1年間帰郷】

上郡町（以下K）それでは、数本さんがアニメーターになった経緯から教えてください。

数本陽輔（以下Y）昔から絵を描くことが好きで、中学校では造形部に所属しました。ずっと絵が好きだったので、そのころから将来はアニメーターになろうと思っていました。高校を卒業後、大阪のアニメーション専門学校へ入学。そこで、アニメ製作の基本を学び、卒業後は東京で就職しました。プロの世界は厳しく、たくさん苦勞をしました。思い通りの絵が描けなくて悔しい思いもしました。でも、諦めることなく毎日アニメを作っています。

K 5ページにもありましたが、アニメでのまちおこしを提案され、自ら監督として製作にたずさわるなんて、すごい行動力だと思いますが…。

Y 初めは、上郡町を全国にアピールしたいという思いだけでした。漫画「けいすけじゃ」を知っていたので、この漫画を題材にうまく大島圭介のことを伝えることができるのではないかと考えました。たまたま、僕がアニメの業界で

仕事をしていたので、皆さんから監督を任せられ、製作の指揮をとらせていただいたということ

K 監督の依頼を受けてどう思いましたか？

Y 率直におもしろそう！と胸が躍りました。なぜなら、行政とボランティアという、ふだんとは違ったメンバーでアニメを作ることができる。いつもとは違う自由な発想で、新しいアニメができるのではないかと感じました。

## 絵は自分の心を映し出す鏡

—Interview ぼくが監督になったわけ—



K 実際に製作してみたいかがでしたか？

Y まず、ボランティアスタッフでこんな力を持った人が集まっていることに驚きました。それは、絵が上手なことだけではなく、人間性を含めて素晴らしい方々と仕事ができると思います。たくさん悩んで、スタッフ同士で言い合いになったこともあるけど、完成したときは、もう言葉がでないほどうれしかったです。とにかく、このメンバーでなければ「けいすけじゃ」は

うまくなかったし、チームワークがとてよかったですね。

K 最後に大島圭介についてどう思われますか？

Y 「自分の信念をしっかりと持ち、戦に負けても諦めない強さがある。また、人徳があり誰からも慕われる」そんな偉大な方がいたことを「けいすけじゃ」をとおして知ってもらいたいですね。これから、このアニメが上郡町にどんな奇跡を起こしてくれるか楽しみです。



実家の一室で原画を描く数本さん



# 素晴らしき アニメの日々を

——写真でみる製作過程——



## 横田の小言!その二

実は大鳥さんは、身長148cmと小柄だったんです。当時の平均は、155cmでしたから平均よりも7cm小さかったのですね。

しか〜し!大鳥さんは周りから「小粒ながら全身これ胆」と称され、背は小さいがその全身が胆の塊だと言われるほど度胸があったのです。わたしも大鳥さんみたいに強くなりたい…。

①アナログトレス②描かれた背景③アニメ製作部屋で作業中の坂本治代さん(手前)と寺田保子さん(奥)④トレスを行う小林味加さん⑤水彩絵の具で背景を描く松本愛末さん⑥編集作業中の袖山敬史さん⑦二人で楽しく制作する小寺朝子さん(左)と松本愛末さん(右)⑧大鳥圭介生誕地で地域の方と交流⑨真剣な眼差しの福田晴菜さん⑩アフレコのためにみんなで練習中⑪アフレコを行う小河大助さん⑫パソコンを使ってトレスや彩色などの作業中



# 「げいすけじゃ」から生まれた連鎖

# アニメの奇跡



アニメが完成して、どのようにまちは変わるんだろう…。そして、このアニメはこれから私たちにどんな奇跡を起こしてくれるんだろう…。



作品に参加できて非常にうれしいと話す西沢さん



要所を押さえて丁寧に講演する中川さん



## 私たちの誇り大鳥圭介

### 大鳥圭介没後100年記念講演会

「今回、東日本大震災が起こり、とても痛ましく、私自身が何もできない無力さでいっぱいです。しかし、大鳥圭介も数々の未曾有の災害の中で、諦めず強く生きました。そして、日本の発展に寄与した。今、圭介の偉業を知ること、上郡町だけでなく日本全体が元気になってほしい」。

「今、東日本大震災が起こり、とても痛ましく、私自身が何もできない無力さでいっぱいです。しかし、大鳥圭介も数々の未曾有の災害の中で、諦めず強く生きました。そして、日本の発展に寄与した。今、圭介の偉業を知ること、上郡町だけでなく日本全体が元気になってほしい」。

講師である中川由香さんは、講演の冒頭でこう話し、来場者に圭介の我慢強く、諦めない心を伝えました。講演は、「国づくりと大鳥圭介」と題し、圭介の明治政府高官と

多くの人が圭介の偉業を再確認し、過去と現在をつなぐ貴重な時間を過ごしました。

講演者である中川由香さんは、講演の冒頭でこう話し、来場者に圭介の我慢強く、諦めない心を伝えました。講演は、「国づくりと大鳥圭介」と題し、圭介の明治政府高官と

参加者のひとりには、「大鳥さんがこんなすごい人だとは思わなかったよ。大鳥圭介さんの地元、上郡町民として胸はって生きないかね。心にしみじみ伝わってきたよ」と笑顔で話していました。



### 中川由香さん プロフィール

1975年生まれ、兵庫県洲本市出身。ミャンマー、ネパールなどの途上国で開発コンサルタントエンジニアとして働くかたわら、熱心な大鳥圭介研究者としても知られる。

本紙に、平成21年5月から「上郡町の偉人 大鳥圭介 真摯の人」を執筆し、奇数月に連載中(29ページ)。また、アニメ制作では、アドバイザーとして協力。



すべてはこの日のために。ステージ上のスタッフたち



感謝状を受けとる半沢さん



「けいすけじゃ」を楽しむ皆さん

5月4日(水・祝)、大鳥圭介の没後100年を記念するイベントが、生涯学習支援センターで開催されました。会場では、中川由香さんによる記念講演とアニメ「けいすけじゃ」の完成披露が行われ、町内外から約400名が来場しました。

会場内に響く拍手と子どもたちの笑顔。この日、私たちは大きな一歩を踏み出しました。

郷土の偉人、大鳥圭介と共にまちをつくるという未来への一歩を。そして、私たちは「けいすけじゃ」と共に、郷土を愛する道を歩みはじめました。



あなたもスタッフの一員です

講演会が終わり、ついにアニメ「けいすけじゃ」が披露されることになりました。

完成披露にあたり、ステージには22名のボランティアスタッフが登壇。

まず、山本町長が感謝状を半沢裕人さん・西沢信孝さん・藪本陽輔さん・Tiokクラブ代表の西本佳子さんの4名に手渡しました。

次に監督の藪本さんがスタッフとアニメの製作過程を紹介しました。「アニメをとおして出会った仲間、そしてアニメにたずさわったすべての方に感謝したい。

アニメ製作会社に委託してアニメを作っている自治体は多くあるかもしれませんが、ボランティアだけでアニメを作った自治体は全国で上郡町が初めてだと思えます。

アニメは皆さんに見てもらって初めて完成を迎えます。こうやって、披露会に来てくださった皆さんもスタッフの一員です」。

達成感に満ち溢れた表情で藪本さんは力強く話していました。



スタッフを紹介する藪本さん。一人ひとり思い出があるようで、ときおり笑い話もまじえながら。

たくさんの人の気持ちがこもったアニメ「けいすけじゃ」からあなたは何を感じますか？